

マカジキ 中西部北太平洋

Striped Marlin, *Tetrapturus audax*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北太平洋まぐろ類国際科学委員会 (ISC)

生物学的特性

- 体長・体重：眼後叉長2.9 m・280 kg
- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：3～4歳
- 産卵期・産卵場：4～6月、北緯20度前後の海域
- 索餌期・索餌場：調査中
- 食性：調査中
- 捕食者：調査中

利用・用途

刺身、寿司、切り身（ステーキ、煮付け）

漁業の特徴

我が国の漁獲のほとんどがはえ縄と流し網によるものであり、近年、流し網による漁獲は増加傾向にある。漁獲の大部分はまぐろ類を対象とした操業の混獲であるが、房総沖、釧路沖、南西諸島等ではえ縄、突きん棒、流し網等で本資源を主対象とした操業が季節的に行われている。

漁獲の動向

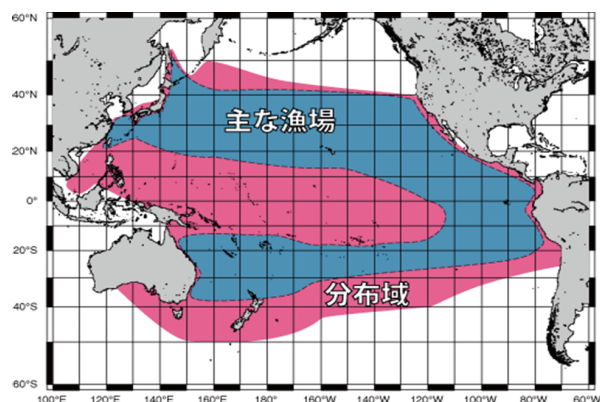
我が国の本資源の漁獲量は、1970年代に1万トンを超えていたが、その後減少を続け、2018年の漁獲量は1,612トンであった。ISCが集計した本資源の総漁獲量は、1960年代前半までは1万トン以下であったが、その後急激に上昇し15,000トン以上に達した。1970年代半ば以降は、多少の増減を繰り返しつつも一貫した減少傾向を示し、2018年は2,536トンとなっている。

資源状態

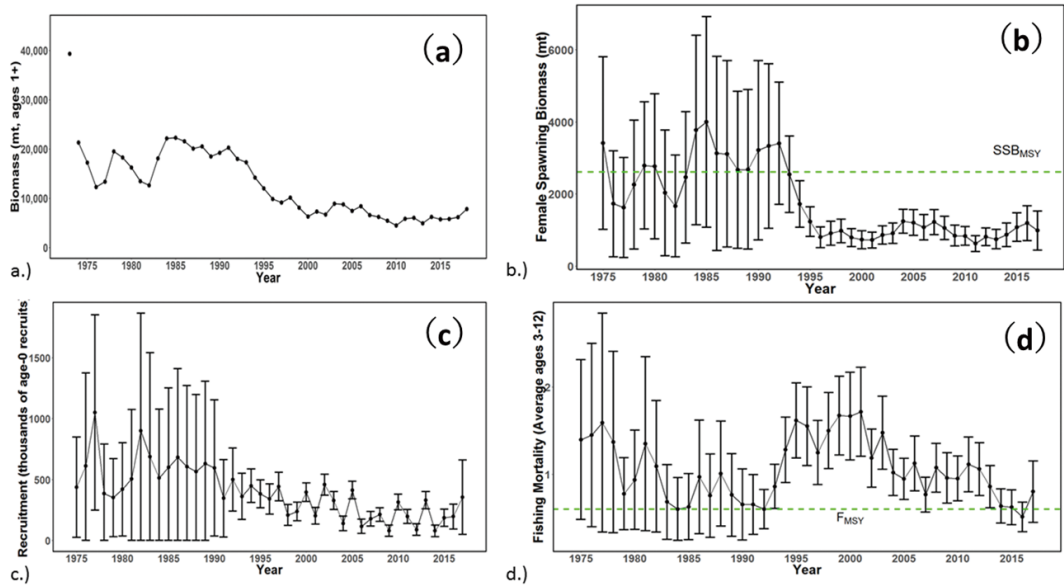
最新の資源評価は、2019年4月にISCかじき類作業部会によって実施された。ISCはWCPFCとIATTCの境界線である西経150度以西の海域で、中西部北太平洋資源の評価を行った。資源評価モデルは統合モデルのStock Synthesis 3 (SS3)、将来予測モデルはAGEPROが使用された。資源評価の結果、資源状態は乱獲状態にあり、漁獲は1993年以降、過剰漁獲の状態にあるとされた。しかし、ISCかじき類作業部会は、今回の資源評価結果には多くの不確実性があることを指摘し、管理方策を決定する場合、これらの不確実性を考慮するよう言及した。また、ISCかじき類作業部会は、様々な漁獲状態の組み合わせで、近年の低加入が続く場合と、平均的な加入に戻る場合の将来予測を実施し、初期資源量の20%まで回復する確率を示した。

管理方策

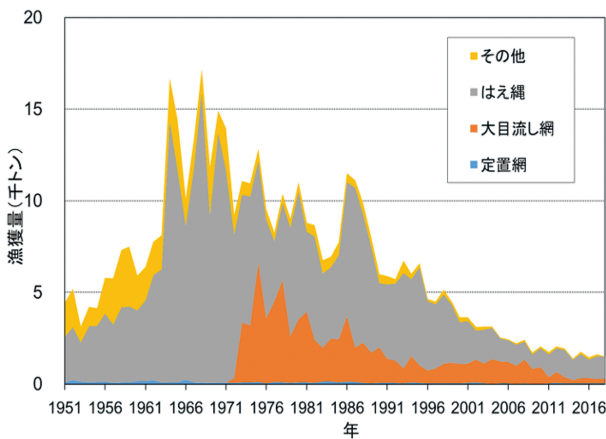
2019年のWCPFC年次会合では、資源評価の結果を受けて暫定的な資源回復計画に合意した。当該計画では、本資源の暫定的な資源回復目標を、2034年までに少なくとも60%の確率で20% $SSB_{F=0}$ を達成することとした上で、当該回復目標を達成するための保存管理措置の改正を今後検討することとされている。



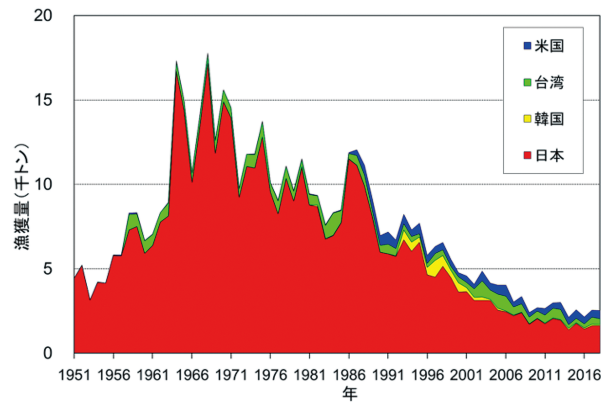
太平洋におけるマカジキの分布域（桃色）と主要漁獲域（青色）



統合モデル (SS3) の解析結果
(a) 1 歳以上の総資源量、(b) 産卵資源量、(c) 加入尾数、(d) 漁獲死亡係数。赤色は前回の資源評価の結果、青色は今回の資源評価の結果を示す。b、d で示された水平の直線は、それぞれ産卵資源における MSY、MSY を達成するために必要な漁獲死亡係数を示す。



北太平洋 (赤道以北) におけるマカジキの我が国の漁法別漁獲量



北太平洋におけるマカジキの国別漁獲量 (ISC 集計分)

マカジキ (中西部北太平洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	低位
資源動向	減少
世界の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	2,120～2,569 トン 最近 (2018) 年：2,536 トン 平均：2,386 トン (2014～2018 年)
我が国の漁獲量 (北太平洋) (最近 5 年間)	1,389～1,759 トン 最近 (2018) 年：1,613 トン 平均：1,567 トン (2014～2018 年)
管理目標	検討中
資源評価の方法	SS3
資源の状態	現在の資源状態は乱獲状態にあり、かつ漁獲は過剰漁獲の状態にある。
管理措置	各国が漁獲量を、2000～2003 年の最高漁獲量から 2011 年は 10%、2012 年は 15%、2013 年以降は 20% 削減
最新の資源評価年	2019 年
次回の資源評価年	2024 年